

報道機関各位

平成30年 年頭所感「新たな挑戦の一年へ」

新年明けましておめでとうございます。

昨年は「葉山の強みを伸ばす挑戦の年」として町内、そして海外に向けた葉山をアピールする大切な第一歩を踏み出せました。語学ボランティアをはじめ、多くの町民の皆様、また「葉山好き」な町外の皆様のお借りできたことが成功のカギでもありました。

今年もたくさんの皆様にお世話になることで、オリンピックのチャンスを活かしてさらに日本ヨット発祥の地をアピールし、「海と山の『HAYAMA』」が世界的に認知されるフレーズになるよう今年も挑戦します。

今まで以上に多くの方が葉山に来られることを想定すると、町内での「民泊」について対策を考えなければいけません。県の動向を見ながら、町の姿勢を決めていきたいと思えます。そして、町民の皆様への還元ももちろん大切です。外向きの政策ばかりでなく、福祉、健康分野の内政においても何かしらのメリットを感じてもらえる手立てを考案しており、早ければ今春にも実現させたいと考えています。

しかし一方で、大きな財政出動を伴う大規模事業が待ち構えています。お金がかかっても、将来への先送りはできない、子どもたちの安全のためにもやらなければならないことは、逃げない覚悟と責任をもって実行へ踏み出します。ごみ焼却炉の解体整備、給食センターの新設、公共下水道の敷設整備や合併浄化槽普及の促進、そして公共施設の老朽化対策など、課題が山積しています。この冬の間には中期財政計画の骨子をまとめ、支出の平準化を図り、将来への負担にならない、しかし先送りにしない姿勢で大きな山を越えていきたいと思えます。

最後に、遊び心も忘れず、議論を重ねてきた「山」を活用した構想も、具体的な整備にかかり、雄大な葉山の「山」という財産を輝かせたいと思っています。

葉山町長という仕事を預かって6年、「葉山らしく、静かな改革」と心に決め、そのとおり少しずつの変化、しかし大きな課題を乗り越えてきました。町全体の経常支出の抑制を図り、財政的な蓄えも増やしてきました。たくさんの人々とのつながりも増えました。

町民が休日を町内で楽しめる町、そして世界中から「いつかは葉山へ」と言われる町を目指して今年も初心忘れずに働きます。

本年も何卒よろしくお願いいたします。

平成30年 1月9日
葉山町長 山梨 崇仁